

(別添2)

No.	
策定年月	令和4年5月
見直し年月	令和 年 月

## 麦・大豆産地生産性向上計画 稲沢市産地 (作成主体:稲沢市農業再生協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

稲沢市は、木曾川によって堆積された第4期沖積層からなる平坦地で、壤土または砂壤土で形成された肥沃な土壌である。この肥沃な土壌を活かして、主に水稻を始め野菜では、ほうれんそう、なす、はくさい、キャベツ、みつば、ブロッコリー、花では菊、果樹ではぎんなん、いちじく、また、植木を主体とする農業生産を展開している。水稻に関しては、全田本地面積(1,662ha)に対して、主食米の作付割合が約7割を占めている産地である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、主食用米から飼料用米等へ生産を移行するとともに、麦・大豆の生産拡大を図る必要がある。麦・大豆、特に麦の生産拡大に当たっては、担い手への農地集積及びほ場の団地化の推進や排水対策等の技術導入により効率的な作業を可能とする生産性の高い麦産地づくりを目指す。

現在、稲沢市は、水田収益力強化ビジョン(以下「ビジョン」という。)において、主食用米から飼料用米などへ作付け転換するべく、ビジョンの推進に取り組んでいる。本計画において、麦のほ場の団地化の一層の推進や麦栽培面積の拡大を通じて、生産性向上・生産拡大の取組を今以上に具体化する。また、この推進については、生産者はもとより、JA、稲沢市、県等の関係者の連携を強化し、地域の農業の更なる活性化を推し進めていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

小麦に関しては、当地域では日本麺用品種であるきぬあかり、パン・中華麺用品種であるゆめあかりの栽培を行っている。毎年、6月に開催されるJA・愛知県経済農業協同組合連合会（以下、経済連）と実需者（製粉業者等）間の調整会議において翌年の買入予定数量・面積の検討・決定の上、播種量を決め、小麦の種子量の注文・播種前契約をする。

令和3年産の当地域におけるきぬあかり・ゆめあかりの作付状況・出荷状況は、きぬあかりでは約26haを作付、約182tを経済連へ出荷しており、ゆめあかりでは約24haを作付、約84tを経済連へ出荷している。

また、きぬあかりは麺の加工適性が高く、うどん店・コンビニエンスストアの麺類など、今後も実需が大きく伸びる余地があり、安定した需要が見込まれる。一方、ゆめあかりは実需者より安定的なタンパク質が含まれる小麦が求められており、より一層の品質の優れた小麦の安定供給が必要とされる。このため、当地域では需要に応じたきぬあかり・ゆめあかりの生産拡大を図り、計画的に取り組む必要がある。

なお、大豆については生産量がほとんどない状況である。

### (2) 生産における現状と課題

当地域における小麦の作付面積は増加傾向にあり、特に尾張地域の木曾川水源による肥沃な土壌を活かして、水稻を始めとした農業を展開している。しかし、米の需要の減少・米価の下落による影響で小麦の生産に注目が集まっている。今まで、作付けの少なかった当地域でも新規に取り組む生産者が増え、作付面積を押し上げつつあり、さらなる拡大が期待される。

なお、10aあたりの収量は天候による影響が大きく不安定である。このため、基肥の過剰施肥による倒状・排水不良による湿害等の収量低迷の要因の対策・土づくり等基本技術の励行とともに、スマート農業の社会実装等によるさらなる高位安定化と経営体への農地集積が進み、大規模化する中、基本技術や適期作業を励行するため、排水対策を実施し、適期播種・適期病害虫防除・適期施肥・適期収穫等の適切な時期の農作業の効率化が求められている。

また、当地域の栽培ほ場については、約44haが団地化されており団地化率は約89%である。しかし、生産拡大を図るには、当地域での小麦の栽培と団地化率向上のためのさらなる集約とブロックローテーションを含めた栽培を行うことによる安定的な生産量の確保が必要である。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦	きぬあかり	(23.4) 23.4	(43.1) 43.1	(26.4) 26.4	(751) 751	(640) 640	(693) 693	(175.4) 175.4	(276.1) 276.1	(182.6) 182.6
	ゆめあかり	(0) 0	(0) 0	(24.0) 24.0	(0) 0	(0) 0	(351) 351	(0) 0	(0) 0	84.3 84.3
大麦										
作物計		(23.4) 23.4	(43.1) 43.1	(50.4) 50.4	(751) 751	(640) 640	(530) 530	(175) 175.4	(276.1) 276.1	(267) 266.9

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
大豆										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

## ② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	きぬあかり	22.1	94.5%	31.8	73.6%	20.8	78.8%	
	ゆめあかり	0	0.0%	0	0.0%	24.0	100.0%	
大麦								
作物計		22.1	94.5%	31.8	73.6%	44.8	88.9%	

作物名	品種名	令和元産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

愛知県においては、「団地」の基準が4haであるが、本市においてもこれを踏襲する。  
 稲沢市は、広大な濃尾平野のほぼ中央に位置し、水と緑に恵まれた平地が全域に広がっている。全田本地面積1,662haのうち、青地の田が1,446haを占め、全田本地面積の8割以上が基盤整備の完了した耕作条件の良い地域である。  
 市域が広いため、担い手の倉庫からほ場までの移動に時間がかかることがあるなど、各農業者の作業効率にばらつきがあるが、担い手の収穫や播種作業は、約2ha/日であるため、1日の作業の進捗に不測の事態が生じることを考慮したとしても、2日間で無理なく作業を終えることができる4haの「団地」が最も合理的に作業を進めることができる。  
 以上のことから、本市における団地化面積は、4haを基準とする。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。